立教大學新聞

発行所
豊島区池袋三丁目
立教大学新聞学会
©振替東京70852
電話（97）3121—9内線97
発行人　野口定男
毎月廿日発行

二階に学習参考書を陳列して御座います
芳林堂書店
池袋西口バス通り
TEL（97）四〇八〇・八〇二五

学生大会ひらく　十七日

四つのスローガンを掲げて

級委新執行部積極的に動く

級委員会では去る五月八日、三十二年度第一回評議会を開き、執行部として新委員長に伊藤裕康君（経三）を選出したほか、副委員長に臼杵徹（経三）、橋本好正（経二）牧野満（経三）多幡貞夫（文二）の四名を選出した。正しい学生活動を展開するための第一歩として来る十七日学生集会をタッカーホールで行うことを決定した。

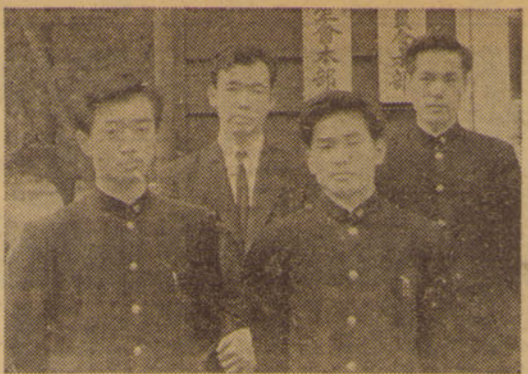
この学生集会は、学生の基本的権利の擁護という新執行部の基本方針から派生する活動であり、級委員会の昨年来の原水爆禁止の活動を総括し、全学生の中に浸透させること、および八月十二日から四日間東京都体育館で行われる第三回原水爆禁止世界大会を成功させるためのカンパ運動が大きな目標である。この会場で原水爆禁止アツピールと決議文を発表し、米英ソ三国の大使館に派遣する代表を決定してその席上から送り出そうというものである。

新執行部では、総長が原水爆実験反対アツピールのため渡英して以来、急速に高まりつつある本学での社会問題に対する関心と学生活動への関心を正しい方向に展開して行くため、これまでと異つた方針を立て活動して行く模様である。

たとえば、級委員会は自治会の方向を強めるため直接に学生と結びつき、一般学生の社会問題に対する関心を高めることなどに力を入れ、クラス討論や集会を開き、いろいろな問題に関してアンケートをとつたりするとのことである。

また原水爆禁止運動については、第三回原水爆禁止大会を成功させる、三大国の実験禁止協定の締結というスローガンをかかげ学校当局と共に促進して行く考えのようである。

伊藤新委員長談　十七日の学生大会は学生との結びつきを強めると同時に政治的関心を高め、さらに勉学状態の改善なども目的にしている。最近再び活発になつた全学連を中心とする学生運動は学生の立場として支持するが、本学ではまだそれに参加する段階に達しておらず、本学は立教独自の自治会として活動するつもりだ。



写真は新執行部

女子学生会

級委会に編入

女子学生会が、六日開かれる最終級委会で解散する。女子学生会のリーダー・シツプを取つていた四名は、立候補という形で級委員会の女子小委員会を組織することになつた。この女子小委員会は級委員会の組織・情報宣伝・渉外・新聞・厚生等の部門と同じもので、今までの女子学生会と大体同じ活動を続ける。

日本英文学会終る

英文科を持つ全国の大学の関係者からなる日本英文学会の第二十九回総会が去る五月二十五日（土）二十六日（日）の両日本学で行われた。第一日の二十五日は午後一時タツカーホールで杉本教授の司会で、日本英文学会会長中島文雄氏の挨拶、昨年の本学会の動き、現状報告等があつたのち、理学部校舎二一四、三一一、三一四、四一五番各教室に分散し「言語学」「英文学」等四つの項目の下に多彩なる研究発表を行い、のち昨年九州大学における英文学会の際、初めて試みられたシムポジウムが本学細入藤太郎教授の司会のもとに小川和夫、山屋三郎、佐伯彰一氏らの講師を擁して行われた。

午後四時半、会場は再びタツカーホールにもどり、中島氏の司会で現在英語教育専門学会に出席のため来日中の、ミシガン大学教授C・フリーズ氏の特別講演が行われた。

第二日は午前九時より、ただちに各教室にわかれ、研究発表を行つたが途中、親睦午餐会が四〇一番教室で開かれた。

その後、二十五日と同じくシムポジウムが太田朗、福村虎次郎、山川喜久男、毛利可信、土居光知、村岡勇、大山俊一諸講師の下に開かれた。午後二時には特別講演がタツカホールで行われたが司会並びに閉会の辞を述べる予定だつた本学杉木教授が、本会の準備に奔走されたため、過労で発病され細入教授が代理をつとめた。講演は前九州大教授中山竹二郎氏の「教師生活三十年」前東大教授、現キリスト教大教授斉藤勇氏の「回顧と展望」の二つであつた。

各室にわかれて行つた研究発表には次の四名の本学関係者が参加している。

第一日は、酒向誠助教授（二一四番教室）、秋山徹夫教授（四一五）第二日は福田光治講師、村岡玄一助教授（ともに四一五）

松下総長再び渡米

世界宗教会議へ出席

七月三十日から八月七日までエール大学で開かれる世界教会審議会（World Council of Church）の中央コミテイに出席のため、松下総長は日本聖公会代表として今月二十八日渡米する。この度の会議には日本代表としてはレーマン（牧師でない信者）として松下総長が代表に選ばれたものである。

渡米後一ケ月間は、原子炉その他立教大学に対する援助などのため奔走すると総長は語つている。

放研の研究発表会

放送研究会では例年の如く研究発表を六月十五日タツカーホールで行う。今年の発表は特にその企画に慎重を期し、録音構成、民話劇・アナウンス課構成、ドキユメンタリードラマの四部門に分れ部員は目下その仕上げに大童である。録音構成は「立大生のクローズアツプ」という題で色々な角度から立大生を批判してゆき、民話劇は榎森康一君（文四）の創作による「あこや姫」を発表する。アナウンス課の構成は「幸福とそれにまつわる不幸」で、人生の裏表をのぞこうというものである。ドキユメンタリードラマ「一九五九年二月二十九日」は、存在しない一九五九年二月二十九日に起るさまざまな出来事を、夢物語的につづろうとするもので、その主題は原水爆反対である。作者の金子紳治君は、狙いである夢物語的分を中心としている原爆投下までの経過と反対運動が主部分をなしている。総長が渡英したといつても、原水爆反対に一般的に消極的な立大生に対してその主張をしてみた。

論説

全学あげての結束を

世界の核兵器実験禁止運動は世界三大国の抜打ち実験のショツクを受けながらも、破竹の勢をかつて大きな渦を巻いている。しかもその後の科学者達の運動も、本学豊田、武谷の両教授が起草した「ゲツチンゲン宣言支持声明」を始めとして具体的な運動と波及し、その動きには、まことにめざましいものがある。ことに学生の実験反対運動への気勢は「巻きかえしてきた」全学連として、忘れられようとしていた学生運動が再び社会の注目をひくようになつてきた。

ところで本学学生達はどうか。残念ながら本学のこの学生運動への気勢は全く低調である。これはまさに否めぬ事実なのである。昨年九月に行われた原水爆禁止世界大会報告会の参加学生は、学生代表者を送つていながらも、タツカー・ホールのわずか一部を占める数にしか至らず全く閑散としたものであつた。このような事実から推しても、われわれは本学学生のこの種の運動への無関心を衝いたことばは認めざるを得ないのである。その後今年の三月岸首相特使として松下総長がクリスマス島水爆実験禁止要請のため、渡英したことにより、従来"無関心"だといわれてきた本学学生も、少なからず総長の使命に同調したようであつた。ことにその出発、そしてその帰国に際するバスを連ねての学生諸君の支援ぶりは、今迄の低調さに較べて少くとも表向きには非常に喜ばしい現象であつた。そのうえ総長帰国報告会では、その会場のタツカー・ホールも割れんばかりであつた。ここで、そのかげに従来忘れられる傾向にあつた級委員会の業績があつたことは忘れてはなるまい。

ところが、声高に読み上げた決議文も、会場での学生の気勢も、今ではどこへ消え失つてしまつたのか、全然といえるほど学生間に何の響きをも残していない。さらに、五月十七日に開かれた全学連の学生大会には、英国に特使を送つた本学でありながら、何ら本学の立場を明らかにせず、何の旗印をも掲げなかつたということは、不思議な事態といわれても仕方あるまい。これには学生大会を開かなかつた級委員会への活動不充分の批難はまぬがれまい。したがつて"特使報告会の盛況ぶりは立教生の"物珍しさ"と"やじうま根性"から出たのだろう」という酷評も致し方ないのではないか。もちろん一部の学生の参加は耳にしないでもないが、これでは不足なのはいうまでもない。だからこのような運動に低調な本学学生間にも「なぜ学生大会を開いて本学の意向を打出さなかつたのか」「本学では学生大会をやらないのか」の不満の声をきくのは当然なことであろう。本学の学生運動への一般の評価が、全面的には当を得ていないという事実も考えるべきだ。"ゲツチンゲン宣言"支持の某教授のもらした言に「本学より熱心な意気をもつ大学にこの意義を明らかにしたい」とあつた。しかしこの際、まず教授陣はわれわれ学生への"関心の稀薄さ"という先入観を少くとも捨て、本学では他大学にみられるようなこうした運動への全学あげての団結の欠除を考えるべきではなかろうか。すなわち、教授、職員、学生を結ぶたての団結が見られるべきではないだろうかということである。いわゆる心と心の結びつきで、全学のこうした運動への意欲を極大に発展させるべきなのだ。

しかし根本的な問題は級委員会を中心とした本学学生であることをよく考えねばならぬ。すなわち級委員会執行部と本学学生間の堅い結束をもつて我々はこの運動を推進せねばならないのだ。われわれは立教大学学生としての立場を再認識し、そしてこれを機会に、本学の科学者達が起草した"ゲツチンゲン宣言支持声明"と首相特使を世界に送つた本学がこの運動の指導者ともなるべきことを強く自覚せねばならないのである。このように考える時級委員会を中心とした禁止運動の級別討論、各グループおよび各文化会サークルの禁止運動への意識昂揚の討論等に具体的事実が必要となつてくるのである。同時に、われわれは今後の禁止運動に全学あげて結束し、常に外界への動きにも眼を向けることを忘れてはならないのも当然である。核実験禁止を中心とする学生運動が立教の今後のすべての学生運動への礎石となるとはいえないだろうか。今年の級委新執行部のリーダー・シツプに期待をするところ大である。

新声

女子学生会のこと

女子学生会が級委員会の女子部になる。女子学生会の究極の目的が結局級委員会のそれと全く同じであるという理由からだそうだ。経済的にもつまつて級委員会に頼らなければならないというのが第二の理由というが、この方が大きな比重を持つているのではないだろうか。発足当時の女子学生会の集会で私はこんな話を聞いた。女子学生には女子学生で解決しなければならない問題がある。人事課で継子扱いされる女子の就職問題も一つだ。女子体育の課題もあるそれらのことは女子学生の一人一人がいくらキバつてみてもどうにもならない。そこで"女子学生会"という組織を通じてもつと強い声にしようというのだ。それなら女子学生会もただ女の子ががやがや集つて雑談する井戸端会議めいた性格ではなく、立派なサークルである。それが今度は同じ目的云云ということで級委員会と合併するという。級委員会にしても女子学生会にしてもその目的は学生がいかにしたら最も良い勉学の状態を保ち得るかということにあるのだそうだ。ここまで来るともう女子学生会の最初の主張などまるで忘れられている。

共学の大学で女子学生会などあるのがそもそもおかしなことだといいはじめた女子学生達はそれなら何故級委員会でもその女子部になろうなどという気になつたのだろうか。何度もつぶれた女子学生会がつぶれた後から必ず起ち上ろうとした原動力は女子学生という自意識の過剰から来たものに過ぎなかつたのだろうか。

女子学生会が級委員会の女子部におさまるのならこの新しい組織はせつかくかかげたモツトーに反してやはりただ経済的な理由からだけとしか考えられないのは心細い。

入学時の女子学生会の歓迎会に出席した時、総長代理として出席した森脇学生部長も、共学の大学では女子だけの集会は必要ない。このような会が早くなくなることを望むというような主旨の挨拶をのべた。級委員会に対すると同じ無関心が、女子学生自身の無関心と相俟つてとうとう女子学生会をつぶしてしまつた。（文二女子学生）

文学部（専門課程）の出欠制に思う

私は文学部三年に席をおくものです。本学の出欠制度については今まで、立教大学新聞、級委員会新聞等でいろいろといわれてきましたが、再び考えてみたく、あえて筆を取つた次第です。というのは専門課程における出欠制度のことなのです。すなわち、私が不思議に思うのは、経済学部が専門課程になると出欠はとらず、文学部は教養課程に引きつづき取つているという矛盾なのです。学校当局がどういう理由でこの制度を取つているのかは知りません。しかしながら、現在行われている出欠制度は、全然無意味だと思うのです。事実をお話しすれば解ると思います。「オイ！今度の授業のカード頼むぜ」「ああ出来たらな」という会話は授業の前に必ず聞かれるものです。また、授業に出た時カードを余分に二枚三枚を仕入（？）ておき、すぐに授業を抜け出す。さらに、この間、こんなことがあつた。始まる前に出席カードが配られた、そのあと、副手の方が、「この授業は休講です」こういつた現状を続けているのでは先に申したように全然意味のないことであり、「二分の一以上出席しない場合は該科目の受験資格を失う」という規定も、その性質を失うものではないでしょうか。経済学部は人数が多いから、出欠を取り切れないとおつしやるなら、それは単なる口実としか思えません。他の考え方をすれば、三年ともなれば、授業外の勉強が大きな比重を占めてくるのは当然のことであり、したがつて面白くない授業に出席することは、つい億劫うになる。私はそれでいいと思う。それを出欠制度で束縛する必要もなくなるのではないか「受講したい者だけ受講して下さい。」と授業前よく教授から聞かれることだ。出欠制度を廃止すれば受講したくないものは当然しなくなるし、騒音もなくなり、受ける方も、する方も現在より熱が入るのではないかと思う。（文三S）

四年ぶりの優勝

▽一回戦

立大　000 001 000　1
慶大　000 000 000　0

立教六回表は無死で西崎、井上の連続二塁打で一点を獲得、慶大は八九回のチヤンスも杉浦の好投とバツクの好守に阻まれ得点出来ずシヤツトアウトで勝利をおさめた

▽二回戦

慶大　0000010001　2
立大　0000001000　1

立大は拝藤をマウンドに送り、慶大は広野と、両軍とも万一の三回戦を予想した布陣で開始された。拝藤は五回までわずか一安打の好投に慶大を抑えたが、六回恐つた慶大に三安打を集中され先取点を与え、杉浦にマウンドをゆずつた。以後杉浦の好投と七回左翼芝生席にたたき込んだ片岡の本塁打で同点とし、八回、九回一打勝越のチヤンスも物に出来ず、延長戦に入り慶大は十回二安打とスクイズ犠打で決勝点をあげた。

▽三回戦

立大　002 000 000　2
慶大　000 010 000　1

立教杉浦、慶大林とエース両投手の登板で開始されたが、林は一回戦のような威力はなく、早くも三回長嶋に適時打をこうむり降板、巽、高橋と三人の投手をくり出したが慶大打戦はわずか二安打で一点に止まつた。

三回立教は二死一、二塁のチヤンスに長嶋が一、二塁間をぬく安打と浅井の果敢な本盗で二点を先取し、五回慶大に一点を返されたが以後杉浦の力投で押し切つた。

夜の池袋で気勢

優勝にわく池袋の夜は、神宮から繰り込んだ学生の群で大変な騒ぎだつた。

○…喫茶店緊急の前には四、五十人の立教生が集まつて、スクラムを組み、盛んな気勢を揚げ、勢い余つてバスを止めたり、タクシーを蹴とばしたり……。それでも、学生のフトコロ具合、十一時をまわる頃には「飲みたらん」とションボリ立ちつくす連中が続々と現われ十二時近くには学生の姿もまばらになつた。

○…プール横のグランドでは級委の導きによつて集まつた百名余の学生がフアイヤーをかこんで気勢をあげた。十時四十分に松下総長が自宅より到着。岩井学生部副部長も学生と肩を組んで校歌を斉唱、次いで松下総長から"永年のわれわれの願いがかなえられた、感謝感激に耐えません。天皇杯獲得後に正式に祝会をおこなうから学生全員これに参加されたい"との挨拶後、総長の音頭で、"立教大学万才""立教大学野球部万歳"の三唱、学生間から"松下総長万歳"と星空をつき破らんばかりに斉唱して散会となつた。

帰る学生の間には"俺は総長と握手してきたぞ""俺は肩をさわつてきたぞ！"と各々この日の感激を新たにしていた。

リビー説へ反論書簡

武谷教授ら米原子力委へ

武谷教授、小川岸雄、道家忠義両助教授の三氏は四日、「リビー説」への反論書簡を米国のC・ホリフイールド原子力委員会分科委員長に送つた。これは五月中ごろから本学で道家助教授を中心にリビー博士の"死の灰"に関する説の批判対論会を開いてきた結果決つたものである。書簡での主要な点は、ストロンチユウム90が、必ずしも全人類共通な見地からのみ検討され得ないこと、つまり米食人種は別だということである。もう一点は、今後継続して実験するなら、日本人などは三、四年内に一般人の許容量の約二分の一である自然放射線量に匹敵するということである。

中川教授帰国レセプション

五日十二時半より赤坂国際文化会館において、中川一郎教授の帰国レセプションを行う。

コモンルーム設置

新設の女子学生会館に

一四一号館横の女子寮新築の問題はその後いろいろな話合いが持たれ、大体三十人位収容出来るものを建てたいという意向である。この建物は女子寮というのではなくて女子学生会館という名目で寮室の他に、五十人位収容出来るホールをつくつて、女子学生の集会の場になるようなものにしたいという。出来れば来年の四月に間にあわせたいという話だが、完成すれば寄附者ロザリ・レナールド・ミツチエルの名前をとつて、ミツチエル・メモリアル・ホールというような名前がつけられる――。

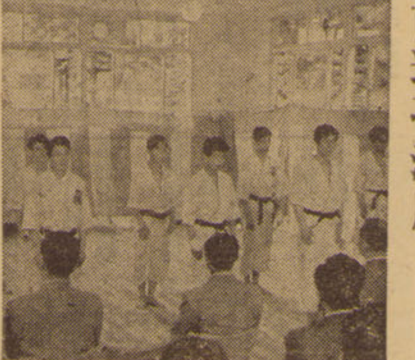
なお、この女子学生会館が中学のテニスコートに出来る場合はテニスコートの敷地として正門前グランド横の馬場が考えられている。

優勝特集号
8日発売　20円　タブロイド10頁
主な内容
一面…詩　サトウハチロー
二面…記録及び解説
三面…戦評　田中、真田氏
四、五面…座談会
六面…選手紹介
七面…各界の祝辞
八面…街の表情
九、十面…記録写真
立教大学新聞学会

空手部道場落成

空手部のかつてからの懸案であつた道場が診療所前の旧道場あとに五月二十八日落成し、落成式が午後二時より、新道場で体育会長代理、竹田チヤプレン、体育会、全日本空手連盟大塚会長、監督、現役OBら空手関係者出席のもとに盛大に行われた。

従来の道場はバラツクの粗末なもので、練習にも支障をきたし、以前から改善の声が出されていたが、昨年来の新築案が具体化し、本年四月三日に着工、O・B、空手関係者らの援助により総工費、百十万円で、落成したものである。



人事異動

▽物理学科長、教授　豊田利幸＝理学研究科原子物理学専攻（修士課程）主任を命ずる。▽教授　杉浦義勝＝理学研究科原子物理学専攻（博士課程）主任を命ずる。▽教授　三矢篤＝理学部化学科長および理学研究科化学専攻（修士課程）主任を命ずる。▽笠井康一＝理学部および一般教養部講師を委嘱する。▽唯井恒丸＝理学部講師を委嘱する。▽黒木暢子、早乙女篤子＝昭和三十二年度理学部研究補助員を委嘱する（物理学科）▽大林武子＝同右（化学科）（四月一日）▽助教授　岩井祐彦＝畑井教授病気欠勤中昭和三十二年度経済学部一年P組指導教授代理を委嘱する（四月十六日）▽立花俊一　西三重雄　林田侃＝一般教育部講師を委嘱する。▽文学部講師　杉政孝＝一般教育部兼務を委嘱する。▽十川和子＝昭和三十二年度理学部研究補助員を委嘱する（数学科）（五月一日）ケアレイ・C・ベリー＝文学部講師を委嘱する。▽レイモンド・J・ハンマー＝文学部研究科講師を委嘱する。（四月一日）▽化学科長・化学専攻（修士課程）主任、教授　奥野久輝＝願に依り化学科長および化学専攻（修士課程）主任を解く。▽原子物理学専攻（修士課程）主任　教授　武谷三男＝願に依り原子物理学専攻（修士課程）主任を解く。▽兼任教授　中川秀恭、教授　笠井康一、講師　矢野禾積、講師　W・B・ウイリアムソン＝願に依り職を解く。（三月三十一日）▽理学部長　植村琢＝教職課程委員、学生相談所顧問、機関誌運営委員及び図書館委員を委嘱する。▽川上一郎＝理学部副手を委嘱する（四月一日）▽岩丸茂雄＝昭和三十二年度前期文学部講師を委嘱する。▽井野徹夫＝理学部副手を委嘱する。五月一日▽教授　奥野徹＝学生相談所嘱託を委嘱する（五月八日）▽教授　中川重雄＝原子力研究所長を命ずる（五月二十日）▽体育会長代理　教授　後藤真＝体育会長を命ずる▽天野恭徳＝文学部講師を委嘱する。▽助教授佃正義＝理学部物理学科長　事務取扱を命ずる（六月一日）▽講師　氏原正治郎＝願に依り職を解く　▽副手　西川益生＝任期満了に依り職を解く　▽副手　原田吉之助＝同右　▽大根秀夫＝願に依り職を解く。▽教職課程委員・図書委員・教授　中川重雄＝教職課程委員・学生相談所顧問・機関誌運営委員及び図書館委員を解く（三月三十一日）▽講師　今井忍＝願に依り職を解く（四月三十日）▽講師　奥平清昭＝休職を命ずる（有給）五月七日　▽物理学科長　原子物理学専攻修士課程主任・教授　豊田利幸＝願に依り理学部物理学科長を解く（五月三十一日）▽体育会長・教授　中川一郎＝願に依り体育会長を解く（六月一日）

佐々木君文化交流で欧米へ

既報＝フランス学生連盟（U・N・E・F）五十周年記念大会に出席するE・S・Sの佐々木君（文三）は来る六月三十日神戸出港の赤城山丸で渡佛する。渡佛の際、同君は日本の教育映画、本、写真を携帯し、各国との文化交流をはかり、大会後、スイス、イギリス、イタリアを回りさらにアメリカに渡り、十一月末帰国する予定である。

盛んな学内公演

学内文化会各部主催による催し物が活発なおり、五月二十九日午後六時三十分から日比谷公会堂で、芸術研究会主催による「フランス・ヴアイオリンソナタの夕」がヴアイオリン巌本真理、ピアノ井口秋子の演奏で行われた。また三十一日にはB・S・A第十六支部主催で諏訪根自子演奏会が田中園子のピアノ伴奏で催された。

このほか、劇団むらさき会では五月三十一日、六月一日の両日、三島由紀夫作「鹿鳴館」を大和証券ホールで、またグリークラブが「六大学合同演奏会」を六月一、二日に日本青年館で行い、管弦楽部、スウイング・クラブその他も近いうちに発表会、演奏会を行う予定

学生さん大歓迎
ダンス教授
初心者専門速成教授
新大久保駅前交番横入ル
国電神田駅前三菱銀行裏横
国電新橋駅烏森口正面二階
三所共通（36）1374　各一分
巴里院ダンス教授所

会告

本年度立教大学新聞学会のスタツフが次のように決りました。

委員長　大久保鼎忠　経三
編集長　赤倉照男　文三
次長　福井雄之　経二
総務部長　土屋孝治　経三
次長　堀内正二　経三
次長　石田一郎　経二
営業部長　内田博　経三
次長　山田源次　文二
会員　石井健夫　清水純一　江橋剛　萩野谷猛　若林哲雄　真田元　加藤武　小泉雄治　間庭鋭　市村忠雄　飯島晋輔　半田茂　森川孝子　柴田徹　野村清比古　清水健吾　山本庄司郎　篠原稔　森本金治　村山孝三　片野博之　西寺桂子
準会員　石田善　小阿瀬一郎　石井孝　河田徹司　高橋寿夫　八木壮一　南京極　誠　間所清人　内田昌孝　内田富代　山本雅代　二宮啓子　寺本順子
客員　二階堂　弥　佐藤信義　臼井康博　大川幸男　山田有恒　細田秀次
休会者　高野元夫

立教大学新聞学会

みのり　みのり
フィルム
写真用品
8㎜シネ用品

おことわり
学園は休載します。

波紋

窮屈な詰襟もナフタリンとともにタンスの奥へ、衣更え、白い季節。「白地のワイシヤツ着用の事」の学生部通達もこの時だけは徹底する。白が黒より涼しい科学的根拠はないが見た目はやはり清潔で涼しそうだ。▼六大学野球も早慶戦を待たずに四年ぶりで本学の優勝が決定した。スポーツは勝つても負けても美しい。本学の優勝と並んで東大の五位は賞される。▼神宮に行けなかつた人は専ら学食のテレビで応援していた。学校の提供によるこのテレビなかなか評判が良い。▼相撲、野球と口を動かしながら観戦もオツなものだ。湯沸し器や机の新設で学食もこのところサービスに忙しい。▼ところがひとたび食事時間ともなるとその混み方はひどすぎる。十一時半から十二時半までのピークには千人もの人が「カレー三つ、遅いぞ！」「ランチ！ランチ！まだか！」カウンターの回りは十重二十重▼他校とは条件も違い比較出来ないが、慶応日吉などでも、狭い、女子専用室を作れ、との声がある。法政などは昼はある程度混むとしても地下室の大食堂が狭いという声はない。しかし商人に委託経営させており、独占的なせいか街よりまずいたかいという非難がある。▼本学では入口やカウンターが狭すぎる、御飯の種類が少い、落着いて集会に利用出来ないとの声はたしかだ。慶応三田では中二階を作つて利用させている。「学問は飯と心得るべし。腹にあくの為なり。かけ物などのように人に見せんずる為にはあらず。」（三浦梅園）勉学はこうありたい。けれどもカレーの量が少いことも事実だ。▼利用者への注文もある。カウンターの前で並んで下さい。食器類は大事に扱い、持出さないようにして下さい。"食欲は理性に従え"というのも最ばかりではないが。▼とにかくお互いの学食である。法学部新設の暁には、地下室へ大食堂をという遠大な計画はさておき、ここらで現実的な打開策が欲しいものだ。学生も学食にかぎらず、問わぬ限りはいはぬこそいみじけれでもあるまい。

新製品
欧米の高級品にまさる
デラックス
14金ペン付 ¥3.000
豪華なプラスチツクケース入
若い人のセンスにピッタリ
ジュニアー
14金ペン付 ¥1.000
SAILOR INK
セーラーロケット

スポーツ車の最高峰!!
ツーリング・スポーツ車　19,800円
レデイーズ・スポーツ車　19,800円
レーシング・スポーツ車　20,500円
6ケ月分割払
（カタログ進呈）
全国八千軒山口自転車代理店へ御用命下さい
山口の自轉車
東京都台東区竹町135
株式会社山口自転車工場

ドイツ語学書専門出版
郁文堂
郁文堂
小独和辞典
文博佐藤通次　文博成瀬清共著　ポケット判五三〇頁
価280円　〒16円
語彙が豊富で内容が充実ししかも携帯に便利な小独和
目録（内容見本）呈
東京都文京区東大正門前
振替東京一四九八一

好評嘖々の重版書
初級から中級へ　入門ドイツ語　常木実著　二八〇円〒32
ドイツ語の基礎　橋本文夫著　四〇〇円〒48
わかり易いドイツ語　青木一郎著　一六〇円〒24
ドイツ語の要点　藤田五郎著　一二〇円〒16

橋本文夫著
橋本ドイツ語講座
懇切明快な指導書　最短距離の学習書　全三巻
A5判各巻約一五〇頁　価一八〇円送料二四円
片仮名と万国音標文字で発音を示し、逐語訳を添えて印象的に組んであるから、涙なくしてドイツ語を会得できる

文博相良守峯監修
大学ドイツ語講座【全六巻―第五巻まで出来】
最高学府におけるドイツ語教育の再現
A5判上製各巻約三〇〇頁　定価各三三〇円送料四八円
Ⅰ前期篇　海老原・富山・田中著　発音・初等文法・初級読本
Ⅱ後期篇　三浦・海老原・野島著　中級文法・読本・単語集付
Ⅲ文科篇　国松・藤村・登張著　古今の名作名文を収録
【Ⅳ理科篇　Ⅴ医科篇　Ⅵ生活篇　近刊】

ドイツ廣文典
櫻井和市著　文法を広範囲に詳説、適切な文例豊富、文法用語と語彙の索引附す　￥三八〇〒四〇
表でわかるドイツ文法ノート　羽賀良一著　￥一一〇〒一六
新ドイツ語基礎講座　全三巻
植田・星野共著　初級向に発音・文法・訳解・作文　各￥140〒16
藤田ドイツ語入門　藤田五郎著　ドイツ語で知りたい事は総て網羅　￥330〒40
英語対照独逸語入門　小柳篤二著　英語の知識を生かして独語を会得　￥250〒32
森川ドイツ語入門　森川晃卿著（新刊）親切な説明、初級者の必携書　￥270〒32
初級雑誌　ドイツ語　七月第三号　￥八〇〒八
桜井和市・阿部賀隆編集　附録ドイツ歌集11曲・文法・読本・訳註・名作物語・ドイツの歌・ドイツの旅等々
基準佛和辞典
増田俊雄編　新装増補版　三五判　七一〇頁　原語三万余　熟語豊富　逆引表付　￥三八〇〒四〇
新ふらんす語動詞の変化　文法既要付　￥一三〇〒一六
フランス基礎単語二〇〇〇　斎藤一寛編　￥一三〇〒一六
基礎フランス語講座　上下二巻
篠田・家島・田島　初級者の為の基礎的説明に終始　各￥250〒24
フランス語の基礎　大井征著　親切な説明で初級者の疑問を解決　￥300〒32
速修ふらんす語教室　水谷謙三著（改訂版）フリガナ附の快適な入門書　￥180〒24
フランス語24講　斎藤一寛著（新刊）大学生初級向叢書　第一刊　青春文庫3　￥200〒16
東京・神田猿楽町二ノ六
振替・東京一三三九〇
第三書房

核実験が世界の世論をおしきつて強行されているが、核兵器をめぐる各国の反対運動も急ピッチな動きをみせている。その一つに西独科学者陣の「ゲツチンゲン宣言」と、それに呼応した日本科学者陣の「ゲツチンゲン宣言支持の声明」がある。ここに同宣言の意義とその支持の背景を追つてみよう。（編集部）

ゲツチンゲン宣言支持の背景

「原子兵器の製造、実験、使用に絶対に参加しない」とした西独のゲツチンゲン宣言は、世界各地に非常な反響をまきおこし、日本においては湯川秀樹博士をはじめ二十六名（一般には二十五名と報道されているが実際には、その後さらに京大の小林稔教授が参加した）の物理学者が五月十四日「このゲツチンゲン宣言を全面的に支持する」との声明書をもつて、科学者の立場として核兵器に対する態度を明確にした。この声明は原水爆実験反対運動を促進するに当つて、先の松下特使派遣によつて「科学的な根拠が相手を説得させる重要な手段である」とした事からも科学者間の積極的な活動として注目に値するものである。

このゲツチンゲン宣言の動機はそれ以前の二月二十八日に、日本の物理学者がその立場を生かして論文の交換などと合せ、四〇一名の署名をもつて、同僚として英国物理学者、さらには米、ソ等の諸国に、個人的に或いは知人を通じて訴えを行つたものによるのであつて、各国で大きな反響をよび、四月八日には朝永振一郎教授（教大）あてに西独のノーベル賞受賞者ハイゼンベルグ博士から日本物理学者の運動を支持すると共に、資料の交換を願いたいとの連絡があつた。こうした情勢のもとで五月十二日、ハイゼンベルグ博士をはじめとする十八名の西独原子科学者の宣言がなされたのである。

〝ゲ宣言支持の手続きが外電のキヤツチ以来、わずか二日間でなされたについて声明書を起草した一人として立大豊田利幸教授は「共同通信の好意でこのニユースが独語の原文と共に手に入つたのですぐにその内容の検討を行い、声明文中の〝我々小国は……〟という言葉を重視して小国の利害が一致だという点で、我々小国の原子兵器の所有を固辞し、このことこそ世界平和の促進をたすものとして原子兵器を持たぬ国が団結して訴えようとしたのだ。そして中国への学術使節団が出発する前にその賛成を得ようというわけで、急いで武谷教授と二人でもつて立教大学で声明書を起草し、郵送及び電話連絡で二十六名の学者から全面的支持を得た」といつている。

これには、このゲ宣言を〝対応宣言〟として一層促進させるために日本の科学者が、自己の立場を一層自覚して、それが青年学徒の指導的立場にある事を考慮しまた実際問題としても、こうした運動は科学者が〝心の団結〟というもので防ぐより他に方法がない、との裏付けをもつている。

支持声明 よりむしろ対応宣言

世界科学者の〝心の団結〟を

世界の世論をおしきつて強行された英のクリスマス島における水爆実験、さらに米のネバダでの水爆実験は実験反対を叫んできた国民に異常なショックを与えた。が、最近の日本政府関係の間に、核兵器の保有に関して時に疑惑を抱くような発言をみるにいたり、こうした事があつては英国に「もはや英国では良心の苛責に悩む必要はない」といわせる事になり、今迄の努力も水の泡と化してしまう。ゲ宣言が発せられた後、西独のアデナウアー首相はゲ宣言署名者の代表を招いて謙虚な態度で話し合つたといわれるが、こうした事は我が国においては大いに参考にしてしかるべきである。これは西欧における国民の伝統的な教育が学者をそこまで支持しているのであるが、このような事実をみるにつけて豊田教授は「国民大衆の支持がない我が国では学者の発言を無視する事が出来ないような所までに、国民の世論をもつていきたい」という事を切望し、そして「日本独自の宣言をという声もないではないが、今後の方針としてそんな事よりも、先ず原子兵器を持たぬ小国科学者が原水爆実験による世界的汚染の科学的調査に協力し、〝心の団結〟による平和擁護を体系づける事が先決問題である」といつている。科学者が核兵器製造などに反対して科学的資料の交換等具体的な活動を示した現在、我々もこれを特に重視する必要がある。

【ゲツチンゲン宣言】

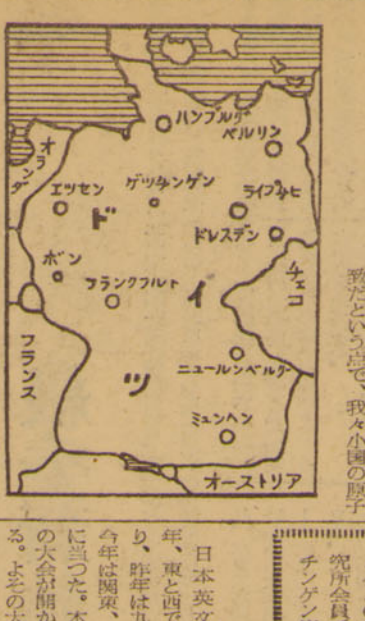
ノーベル賞受賞者のハーン、ハイゼンベルグ博士ら、十八名の西独の原子物理学者が、西独政府の原子核兵器装備計画に対して、四月十二日行つた「原子兵器の生産、実験、使用のために協力しない」との反対宣言のことで、この十八名の学者がゲツチンゲンのマックス・プランク研究所会員であるところからゲツチンゲン宣言とよばれる。

この宣言は世界的反響をまきおこしているが、日本の物理学者二十六名は、五月十四日「このゲツチンゲン宣言を全面的に支持する」との声明書をだした。

なお、この声明書に署名した二十六名の物理学者は次のとおり

有山兼孝、坂田昌一（名大）福田博（東京工大）木庭二郎 湯川秀樹（京大基研）小林稔（京大）宮島龍興、朝永振一郎（教大）中村睦夫（東北大）伏見康治、吉永弘（阪大）大野陽郎（北大）大川章哉（学習院大）佐々木宗雄（都立大）藤本陽一、熊谷寛夫、野中到、菊池正士（東大原子核研究所）渡瀬譲（大阪市立大）中村誠太郎、野上茂吉郎、山内恭彦、菅義夫（東大）中川重雄、武谷三男、豊田利幸（立大）

【写真説明】
（上）は「ゲツチンゲン宣言」支持声明書（左上）は武谷教授（左下）は豊田教授



同人誌紹介②

〜〜エチユード〜〜

外面の美に左右される事なく真摯な態度で現実を観察し、人間の真理を把握しようと云う主旨の下に発刊された「エチユード」も第四号を出すに至り内容も充実し、ようやく軌道に乗つて来たようである。

三号までは分野も広範でバラエテイに富んでいたが、それだけどこか物足りない所があつた。創刊号にはエツセイに良いものがあり、「博多一景」（緒方玲子）、「北海道の美」（茂田泉美雄）「支那の思い出」（皆川猛）、夫々視野は異なるが興味が持てる。難を云えば文章に一工夫欲しい。四号からは活字になつて感じの良い本になつた。

創作では合田春好の「不具者」が戦後の社会で家事を助ける少年の生活体験を書き、読ませる作者の温い目が「嵐の後」（三号）でもくみ取れるが、もう一段現実的な思想性の追求があればよりヴイヴイツドになつたであろう。「鷲」と云う大野実の一篇は昔逃げられた女に対する大工の幸吉の哀執をだれる事なく描いて面白い。書きこみもたんねんで構想力も豊富である。岩崎朱実の「道喪失」、若いデイレツタントのサラリーマンが汽車の中で隣の男と恋愛論を闘わす中に二人の間にあるギヤツプに我慢出来なくなり発作的に殺してしまうと云う筋であるが設定に無理があり、話のもりあげ方が円滑な割に、観念的な言葉による破綻が見える。小浜昭夫の「京の雨」（二号）、この人は「細雪」に似たテーマを扱つているが美的現実世界を描くには至つていない。続篇を期待する。「セピア色の朝」（島田周一）「欲のたわむれ」（宮原昭夫）、二篇共達者な筆致で書いているが感じは必ずしも透明ではない。心理的描写が心理の説明の範囲を脱し切れなかつたのは惜しかつた。作者の内面操作によつて感動を表現してもらいたい。「海のある風景」「馬酔木」（高橋恭子）はスケツチであるがよく書けている。他に詩も幾らかある比較的表現に無駄のないものとして「落葉」（後藤弘）Kの「苛責」目黒悦子の「太吉」、巧みなトリツクも新鮮なメタフオーもサタイアも無いが何れも真面目なものである。より盛んな意欲を持つて安手なアイデアに反撥し将来のポエジイを養つて欲しい。尚校正は細心に。

（石田）

創刊三十一年二月　本紙54頁　活版、会員は英文科三年生、連絡先は練馬区貫井町八三三の二、編集者　会田春海

本紙は続けて同人誌の紹介を行います。お手元の雑誌をお寄せ下さい。

一般随想

―ジユーン・ブライド―
六月の花嫁
村岡　花子

人形製作に数百年の伝統を誇る日本橋吉徳商店のお嬢さんの結婚披露宴に招かれた。「じゆーん・ぶらいど」とアメリカ人がたたえるすがすがしい形容をそのままの清楚な、純白のよそおいの魅力が、ここ数日まだ私の身辺を去らない。

ピンクのカーネーシヨンがふくよかに私の机上に匂つている。花瓶は九谷焼のジヨツキ型、これには新郎新婦の名の頭文字のKとSを図案化したマークがはいつている。花瓶兼用のこのジヨツキは約三合入との説明がついていたが、私の家族にはこれ一杯を飲み干す人はいないので、もつぱら私が花瓶として楽しむことになるのであろう。

心あたたかい人々の深い思慮と若い二人の理解と愛と互の信頼とで結ばれる結婚はなんと希望に満ちたものであろう。

（筆者＝むらおか・はなこ　評論家）

人生観に徹した研究を

日本英文学会総会に出席して

飯島淳秀（いいじまよしひで）

日本英文学会の年次大会は毎年、東と西で交互に開かれており、昨年は九州大学で催された。今年は関東、それも本学が開催校に当つた。本学としてはこの学会の大会が開かれるのは初めてである。よその大学で開かれている時は、当事者の知人の英文科の先生に「大変でしょう」などとあいさつをしていたが、聞きに行くだけの気楽さで、のん気なものだつたが、いざ、その当番校の一員になつてみると、いかに苦労が多いかを痛感させられた。当番校はいわば縁の下の力持ち的役割を果すことが最大の任務であり、プログラムの中に聞いてみたいと思う研究題目を見出しても、間を盗んでそれを聞きに出るということなど不可能であるばかりか、当番校の任務の一端をおろそかにする結果にもなりかねないと知つた。

とにかく、大会委員長たる英米文学科長杉木喬教授を初めとして英語関係の全教授、それに助手、副手、さらに大学院、学部、殊に英米文学会の学生諸君といつた英米文学科プロパーの人々を縦に、大学の事務当局から機関部の人々を横に、いわば全学的な協力体制で大会は開催された。誰もかれもが何の報酬もない、全くの奉仕的な仕事であり、ここに私たちは「立教のため」さらに大きくは「学問のため」という一つの目的に結ばれた無償の行為の美しい結晶を目の当りに見得たことは、大きい感動であり、忘れ難い物だつた。ことにおう洋いの学生諸君がどんな些末な労仂をもいとわに快よく活動してくれと、そしてこの大会の仕事によつて計らずも互に親しみを増し得たことは実に有難いことであり、これは学会が当番校に残してくれた記念すべき貴重な土産であると言えよう。

さて、学会そのもののことだが右にのべたようなわけで、われわれは研究発表を聞く機会をほとんど持たなかつたので批判も何もできないのであるが、私自身聞いた若干の研究発表と特別講演に関連して、自分なりの感想を記してみよう。私個人としては、元来文学の研究論文の単なる口頭発表という点には疑をもつし、また、通例、大会の研究発表が高度な厳選されたものばかりとも思つていないので、年次大会が日本の英文学研究の進歩発展に着々と大きな寄与をしているという修辞学的な言葉にはあまり惑わされないものである。自然科学や社会科学の学会とはいささか趣きを異にするものと自分は考えている。しかし何にしても、中島会長の開会の辞にあつたように、文部省の助成金がなくなつたり、また、斎藤勇博士の特別講演で「現在の会員は昔より少いくらいだ」と言われるようでは寂しいと思う人があるかもしれない。もつとも、「日本における英文学研究は、英米におけるそれにはとても遠く及ばない」という斎藤先生の言葉には、いまさら失望させられることもない。私たち外国人には、外国人なりの見方、行き方でやるより他にないのである。いつか安藤一郎氏も「向うへ行つてみると、われわれのやつている英文学研究なんて幼稚園の子供のやつていることみたいで情けなくなる」と言われていた。それでもなお、われわれはわれわれなりに、宿命的な条件下でやるより他ないのである。

中山竹二郎先生も斎藤博士同様研究態度について、われわれを戒しめられた。「生活に根ざし、結びついたもの、生活の光になるものを求める」研究態度こそ望ましいと言われ、斎藤博士は、徒らに数だけ多く書くことが研究の真価にはならない、「ワン・ポエム・ポエット」である位の覚悟を持つてやつてもいいのではないかという意味のことを言われた。

中山先生の「生活に根ざし、生活の光になる」という研究態度の言葉を聞いた時、自分は直ちに秋山徹夫教授の発表された「永遠の風――J・C・ポウイスの自然崇拝に関連して」を思い起こした。第一日目の秋山教授のこの研究発表を聞いた時、われわれは深い感銘を受けた。研究発表によく見られるbookishな点はなく、一つの人生観に徹した深い考えの中から現代人の生き方に対する警告をすら感じとることができたのである。

このような立派な研究発表に引きかえ、中には誠に低調なのもあつた。あんなのなら、おれだつてできる、と思つた人もあるかも知れないが、もしそうなら、そのような安易さは必ず、天に唾きした者のごとく、自分で自分の損失を招く結果となろう。

最後に、いま一つ印象に残つたのは、ファルク教授が自分の教え子と同僚の研究発表を聞きに来ておられた姿だ。日本語のおわかりにならぬ先生が教え子の初の学会での発表への気遣いとはげましから、また同僚の某先生への敬意から一心に注視されていた姿には心打たれるものがあつたことを記しておきたい。（筆者＝文学部教授・英文学）

第二十九回 日本英文学会 研究発表 主要目次

一、"Exocentric Markers"について―新言語学的に見たPhrase の概念　森塚文雄（神戸商大助教授）
二、日英両語の語順比較　三戸雄一（神戸商大教授）
三、英語音声指導における一断面―無声音【t】の有声化を中心として　酒向誠（立大助教授）
四、Prof. Fries's Contributions to English Grammar (in English)　勇康雄（青山学院大助教授）
五、評論家としてのジヨン・ドライデンに関する考察　菊川正勝（東洋大教授）
六、ホプキンズの感性について　山村武雄（京大助教授）
七、G. M. Hopkins の詩におけるStressの特質　立間実（新潟大助教授）
八、永遠の風―J. C. Powys の自然崇拝に関連して　秋山徹夫（立大教授）
九、Occasional Conformityの問題とデフオー　宮崎芳三（北海道大学助教授）
十、サツカレー解釈の基調　藤田清次（北海道大学助教授）
十一、J. W. Cross の George Eliot 伝の総合的検討　古谷専三（日大教授）
十二、Lafcadio Hearnの思想と文学　太田黒実（熊本大助教授）
十三、Reported Speech の意味論的考察　浄住勘護（熊本女子大教授）
十四、Practical Sugestions―or Learning English　小林光（日米会話学院教授）
十五、The great Gatsby の構成　藤川玄人（名城大助教授）
十六、The World of William Saroyan　広瀬貞見（共立薬科大教授）
十七、R. P. Warren の小説と神―All the King's Men を中心として　横田忠輔（岐阜大助教授）
十八、ヴアージニア・ウルフにおける死の意識　西川正一（早大高等学院教諭）
十九、若きブレイクの 'Innocence と (Experience)'　梅津済美（名古屋大助教授）
二十、詩とその言語―ワーズワスの詩論を中心　岡本昌夫（大阪市立大教授）
二十一、クリステイナ・ロウゼツテイの自然観　大原三八雄（広島女子短大教授）

特別講演
一、On Varieties of English　Dr. Charles C. Fries
二、教師生活三十年　中山竹二郎氏
三、回顧と展望　斎藤勇氏

映画は語る
感動の名作
抵抗（フランス映画新外映配給）

ときは一九四三年、ところは独軍占領下のリヨン。一人の捕虜死刑囚（フランソワ・ルテリエ）がナチの〝ゲシユタポかんごく〟から脱走した――映画「抵抗」はたつたこれだけのストーリーしかもつていない。

が、この簡単な、単純なお話の中にこの映画はたいへんなものをもりこんだ、おしだした、そして成功したのだ。

一人の捕虜死刑囚がナチの〝ゲシユタポかんごく〟から脱出を計画、みごと、成功――たつたこれだけのうちに映画「抵抗」は次のようなことを、いおうとしている。

第一に、一点に集中した人間の行動、仕事――この場合脱獄――というものがいかに、けだかい精神をあらわすものか、ということ。そこには「美」があつた。

第二にこの映画は実在するフランスの軍人、アンドレ・ドヴイニ大佐の〝脱獄の手記〟をもとに忠実に映画化したものである。映画を撮る間〝手記の人〟ドヴイニ大佐は、監督ロベール・ブレツソンにほとんど、つききりだつた。映画「抵抗」は「真」を再現しえた。

最後にこの映画は、まさしく〝レジスタンス〟のかたまりであつた。何に対してか。憎むべきあのナチ、ゲシユタポに対して。悪のかたまり、〝ゲシユタポかんごく〟から脱獄、成功――。映画「抵抗」は「善」の勝利をも見事、うたいあげたのだ。

（武）

ホト線

白い手の効用

志賀直哉は批評家を「無用の長物である。」と斥ずけて、話題をまいたが、まさかそれに応えてとは云えぬにしても、毒舌を以て鳴る高橋義孝あたりが創作を試みたのはつい先き頃のことである。

人の仕事に対して物云いをつけることで喰つてゆける評論家という商売を〝寄生虫〟とか〝気色のワルイ奴〟、と斥ずける徒輩にとつては、相撲の勝負検査役なども、審判員たる行司の判定に口出しをする点で、同列だろう。

朝夕の新聞を飾る政治評論、社会評論、文芸評論から果ては映画批評に至るまで、その筆者達はたしかにその畑の専門的知識の所有者であり、消息通ではあるが、直接の執行に当る〝インサイダー〟ではない。物云いの全盛時代、まことに眼を見張らせるものがある。そのモノ云いも、自然科学と社会科学を問わず科学者達から飛び出すようになつた。ひと頃しきりに、良識と学識兼備の〝立派な人達〟を政界に送り込もう、あるいは「彼等がなぜ自ら立つて政治を…」という声が湧いた。だが、〝立派な人達〟は労組という組織も、金という物云わぬ力も持たなかつた。その証明は堀真琴や木村禧八郎がしてくれる。

あることを口にする人達が行動においても参加すべきは当然であるとはいえ、ビヘビアーリズムに駆り立てられた手合が軌道を逸脱した場合に誰がそれを指摘するのか。云うこととやることとでは、自ら条件が違つてくる。理論と実践の統一が、重視されることのあまりに理論がそれ自体の価値を減失されてしまうことはないだろうか。

理論――机上論、空論の要素が、あるにしても全くそうでなければ――は実践と相互に作用してつねに事態を引き寄する。冷たく傍観する〝白い手〟、と非難されようとも真に誠実な物云いをつけようとする人間は、異声の中に眼を見開いて立ちつくすことと思う。行動にまきこまれぬ〝アウトサイダー〟の効用を忘れ給うな！と云いたい。」

（模奈古）

新刊書紹介

一、最近購入した新刊書

（一）全集、年鑑

日本経済年鑑二十二年版	日本経済新聞社
現代学生講座	筑摩書房
法律学全集	有斐閣
現代ドイツ語講座	筑摩書房
会社年鑑 一九五七	日本経済新聞社
ロシア文学全集	修道社
近代文学研究叢書	昭和女子大学
図説日本文化史大系	小学館
高村光太郎全集	筑摩書房
基督教全史	ケアンズ

（二）単行本

日本のヒューマニスト	高桑純夫
ブルジョア、デモクラシーの理論	岡本清一
危機にたつ民主主義	ラスキHJ
統計学	内藤勝
日曜日の経済学者	都留重人
やさしい経済学	都留重人
	高橋長太郎
近代経済学説史 上	ハスチン
日本経済の産業連関分析	通商産業大臣官房調査統計部編
中小商業問題	松井辰之助
本邦銀行史論	加藤俊彦
日本の憲法	長谷川正安
日本の女性	三瓶孝子編
英語学―研究と文献	市河三喜
独作文用語用例辞典	三修社編集部
教養フランス語 文法篇	田辺貞之助
フランス語入門	前田陽一
芸術は何のためにあるか	伊藤整
アメリカの文学	シユトラウマン
英米文学入門	成田成寿
英文学の特性	矢野峰人
恐怖からの逃走	クローニン
青春の生き方	〃
日本詩集 一九五七	日本文芸家協会
挽歌	原田康子

中川教授帰国報告会

〝中国問安旅行の印象を〟語る

日本基督教代表中国問安使節として中国を訪問していた文学部中川一郎教授は去る五月二十三日帰国し、その視察報告講演会を二十八日、タツカー・ホールで行つた。

COFFEE：MUSIC
紫苑
西口
TeL(97)3048

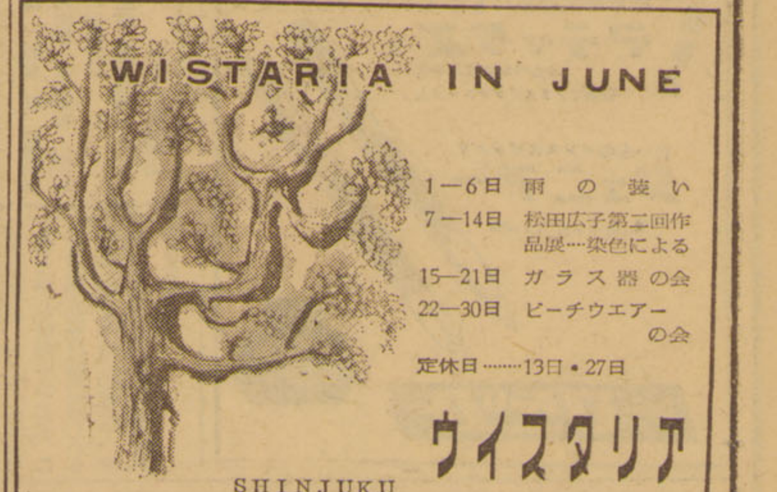
COFFEE：WINE
マルタ
西口ぼうす街
(97)6270

世界的観光地マイアミ
ビーチの雰囲気流れる
珈琲と音樂の高級喫茶
マイアミ
東京駅前・八重洲鉄鋼ビル前桜通り
TEL(27)4015—17
（新宿・新橋姉妹店）
三階は各種御集会に御利用下さい

時計
貴金属
眼鏡
美寶堂
本店 西口(97)0261〜3
支店 東口(97)0651

新宿 高野
FRUITS PARLOUR
TEL(37)2151 2152 2153

ホモ
9H-HB-6Bまで、17種類
最高級精密製図用鉛筆
使いよい硬度をお選び下さい
工業技術院賞受賞
トンボ鉛筆
4612
TOMBOW
1本 50円　1打 360円



1—6日	雨の装い
7—14日	松田広子第二回作品展…染色による
15—21日	ガラス器の会
22—30日	ビーチウエアーの会

定休日……13日・27日

日本フエルト
本社工場　東京都北區豊島町8ノ30
營業所　東京都港區芝田村町4

美しく書けて 水にも散らない
丸善アテナインキ
万年筆に入れても
アテナは固らず
気持よく書けた字は
永久に消えない
30円・50円
全国有名文具店にあり

美しいデザイン
すぐれた性能
パイロットスーパー
¥600・¥800・¥1.000・¥1.500・¥2.000・¥2.500・¥3.000

東京証券業協会々員
東京証券取引所正会員
室清證券株式会社
取締役社長　室政太郎
東京都中央区日本橋兜町1の8（日証館）
TEL兜町(67)1451〜7